



黄金の郷

こしえるびと

つむぐストーリー vol.132

高い志のもと、日々“キラリ”と光る活動をしている人たちがいる。
“黄金の郷”いわて平泉を支える、魅力溢れる“こしえるびと”の
メッセージをシリーズで紹介していく。



PROFILE

日下 貴行さん (42)

Takayuki Kusaka

室根町津谷川

1983年室根町津谷川生まれ。2019年に父・純一さんが残したネギ栽培を受け継ぎ、定職に就きながら農業をする生活を送っている。ネギ10%、水稻20%。

「楽しむ心」を第一に

室根町津谷川 日下 貴行さん

父との別れからの始まり

冬晴れの穏やかな日差しが降り注ぐ津谷川地区のネギ畑。収穫にいそしむ日下貴行さんの姿がある。

兼業農家に生まれた貴行さんは、大学卒業後に民間企業に就職し、北海道・東北の広い地域を転々とする生活を送っていた。転機が訪れたのは2019年4月、父の純一さんが亡くなった時のこと。家の畑にネギが残されていることに気づき「駄目でもともと」の気持ちで産直に出荷した。「どうせ売れないだろう」と期待していなかったが、うれしいことに飛ぶように売れた。意外な結果に驚くとともに、ここでやめてしまうのはもったいないと感じ、純一さんのネギ栽培を受け継ぐことを決めた。

「楽しい」と感じる気持ち

ネギ栽培の第一歩を踏み出すため、貴行さんはまずJA園芸課を訪れた。職員と相談を重ねながら必要な機械や資材をそろえ、基本的な栽培方法を身に付けた。着実に知識と技術を吸収していき、栽培1年目にはJAねぎ部会の人賞を受賞した。以来、より良いネギを作るためにはどうすればよいか、そもそもし良いネギとは何なのかを考え続けながら日々の作業に取り組んでいる。

現在も日中は他の仕事に励んでおり、二足のわらじを履く貴行さんの原動力は「楽しむ」気持ち。「自分にとってネギ作りは趣味の延長のようなもの。楽しいからネギ作りをしているのであって、大変と感じたことは一度もない」と話す。

新たな挑戦に向けて

貴行さんは次のシーズンから、栽培面積を10[㍔]から80[㍔]に拡大する予定だ。面積拡大に伴い、新しい機械の導入や生産コストの管理などの負担も増し、今までとは経営も大きく変化するが、恐れることなく未来を見据えている。さらに、「曲がりネギの栽培にも挑戦したい」と意気込む。昨年はネギを曲げる作業のタイミングを間違えて真っ直ぐ育ってしまったが、それは「もう過去のこと」と笑い飛ばす。「曲がりネギの産地ではない室根で挑戦したい」と仲間に関き、自身で勉強しながら準備を進めている。

いかなるときも「楽しむ」気持ちを第一に。貴行さんは思い描く未来に向け、今日も歩みを進めていく。